

ΔΥΝΑΜΙΣ

No.13

1992.4.1

人間らしく人間的であるために

岡崎才蔵

肩を叩いて、お駄賃がもらえた時代もあった。叩きながらどうしてこう大人は肩なんか凝るのだろうといふかったものである。しかし、本より重いものを持つことのない生活をしていても肩が凝るようになった。

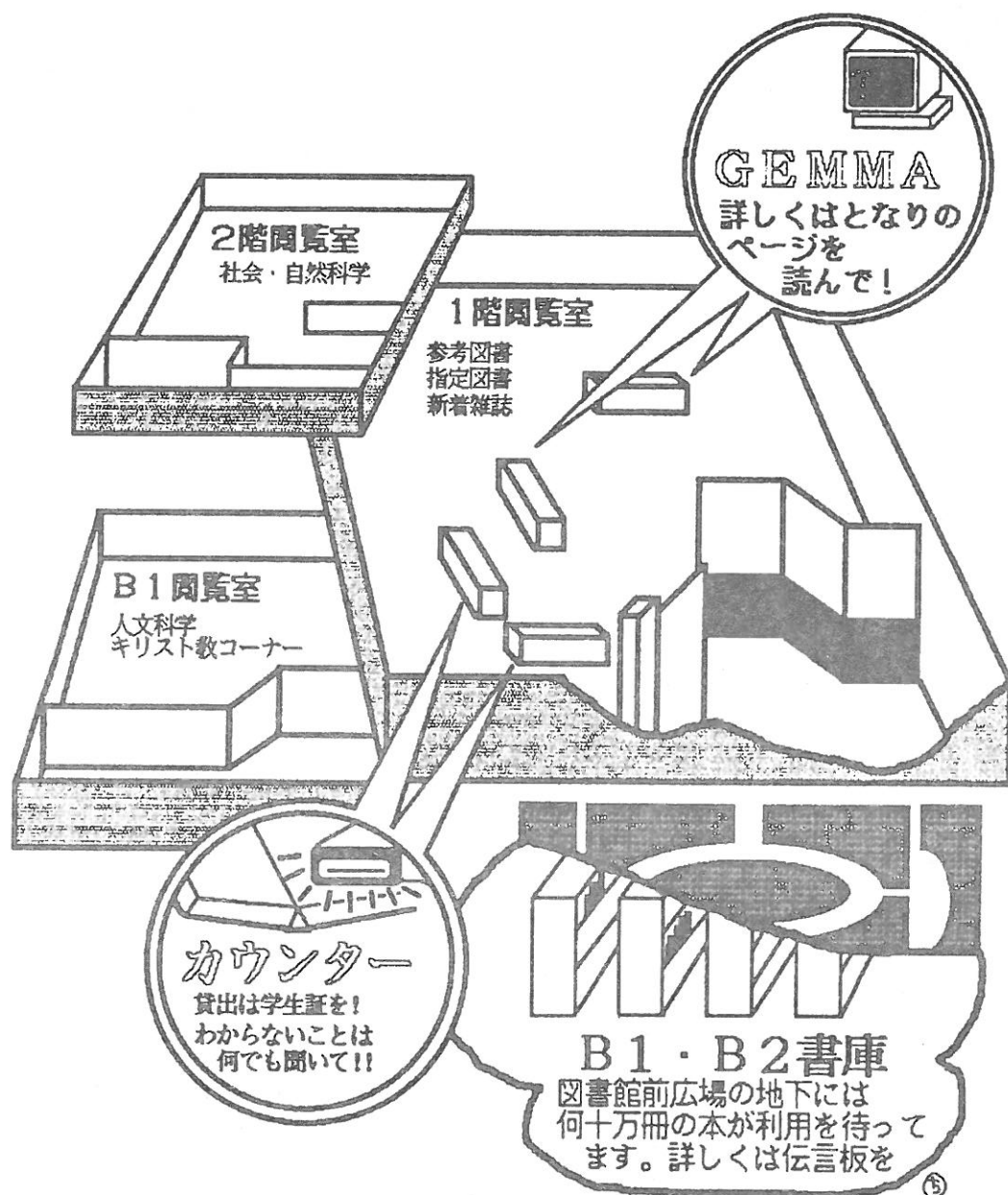
バスカルは人間を「考える葦」と呼び、アリストテレスは「社会的動物」と定義した。聖書では「くすぶる燈芯」であり、考古学では「道具を使う動物」となる。人間が地に這いつくばって生きていた状態から解放されるには、四つの足のうちの二つを歩く機能から解放する必要があった。人間は二本足で歩く自由を得た時、「眩暈い」と「肩凝り」をしょい込んだのだそうである。だから肩凝りは人間の証明ということになる。ところで、それにもまして採集・狩猟の形態から食料生産の形態に移行したことは、人間を更に自由にし、社会的にした。人間らしいということが四つ足時代から遠くあることと正比例したものであるとするなら、食料を求めてさ迷う時間を短縮させ得た動物にとって、一体何をすることが、もっとも「人間らしい」ことになるのであろうか。確かにそれを更により食料を求めることに使うのも人間らしいことではあるに違いない。しかし、それでは、折角、自由にした手を歩行的のために使うようではささかさまにならない、と思う。しばしば「お前はそれでも人間か」というようなことが言われる。人間が人間らしくなくなりうる唯一の動物だからなのであろう。

奈良の興福寺に三面六臂の阿修羅像がある。好きな仏像の一つである。阿修羅像というよりむしろ理想的人間像を仏教的に示したもののように思える。六臂（6本の手）は人間の種々の働きを示したもので、その二本はきっちりと胸もとで合掌している。キリスト教で祈りを説明するのに、こんな話がある。シスターが子供たちと一緒に「主の祈り」を唱えていた。子供たちの一人に、「give us this day our daily bread」のくだりで、早口になにやらモゴモゴと付け加えた子がいた。祈り終えて、シスターは先程なにやら特別な願いをしていたようだと尋ねた。子供はうれしそうに「どうかパンだけでなく、それにバターとジャムも忘れないでください。でも出来るなら今日はケーキにしてください」と答えたというのである。祈りというものが願い事と密接な関係があるにしても、だからといって「おねだり」の領域に終始するものではないことを語ろうとするものである。聖書には「人はパンだけで生きる者ではない」という句もある。人は食べるために生きているのではなく、生きるために食べるのであること、つまり人生は決して「暮らし」の総計としてのみ見積もれるようなものでないことを教えたものである。私にとって、聖堂と図書館は人間としてこのプラス・アルファの部分を生きるエネルギーを補給してくれる大切な場所である。繁く通って、二本足で立ったことを、肩凝りにもめげず、誇れる者でありたいと願っている。

(Saizou OKAZAKI: 文学部教授)

—新入生特集—

図書館を覗く



G E M M A と は ?

最初に！

南山大学図書館の情報検索システムはGEMMAと書いて、ジェシマと読みます。
(たま〜に、ゲンマなどと読む諸先輩方もいますが相手にしてはいけません。)

次に！

では、`GEMMAをどのような時に使うか？`と言うと・・・

[その1] 書名も著者も(そのどちらか一方でもよい)わかっているのに、図書館のどこにその本があるのか、わからない時

[その2] 書名から著者を知りたい時、または著者から書名を知りたい時

[その3] 書名も著者も曖昧で、内容だけなんとなくわかっている本を探す時

[その4] 「★●◆についてのレポートを提出せよ」という課題が出たので、★●◆に関する本を集めたい時

[その5] 自分で何の本が欲しいのかよくわからない時

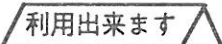
・・・と、まあ簡単に言うと、本を探すものであり、想いを寄せてるあの人との 相性を診断するコンピュータでは決してありません！

(でも、それに関する本をGEMMAで探すことはできますヨ！)

そして！

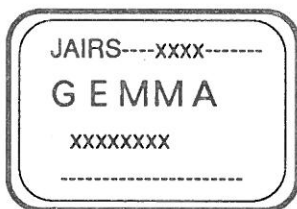
`GEMMAは図書館のどこにあるのか？`と言うと・・・

[その1] 図書館1階に設置してある7台のコンピューター(隣のページ参照)が、GEMMAなのです。

[その2]  利用出来ます の表示が出ているものなら、いつでも使えます。

ついでに！

GEMMAの一番最初の画面は



です。

(別に、覚える必要はありません。)

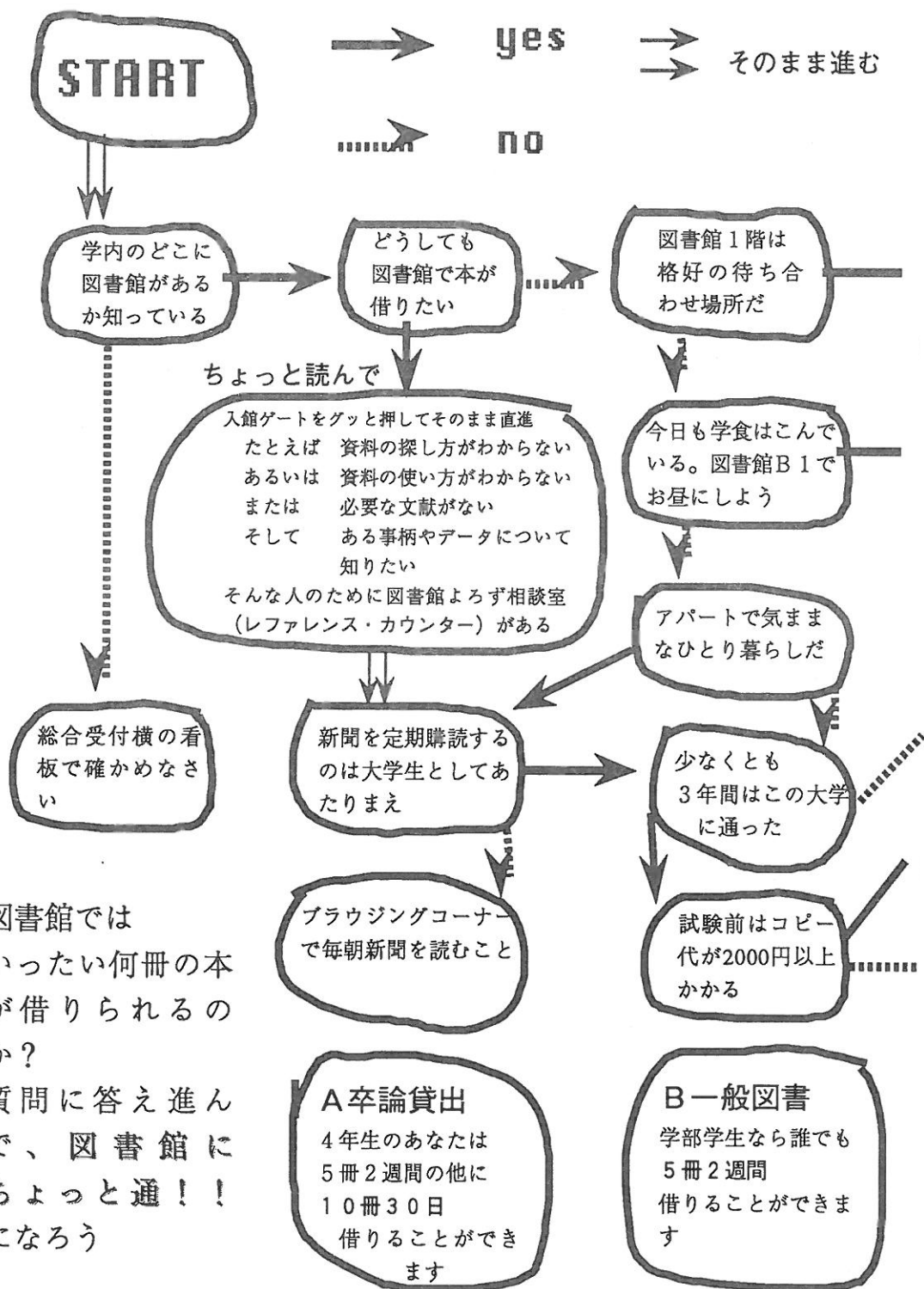
最後に！

あとは、使い方を覚えるだけです。では、また実際に利用する時にお会いしましょう。

おしまい！

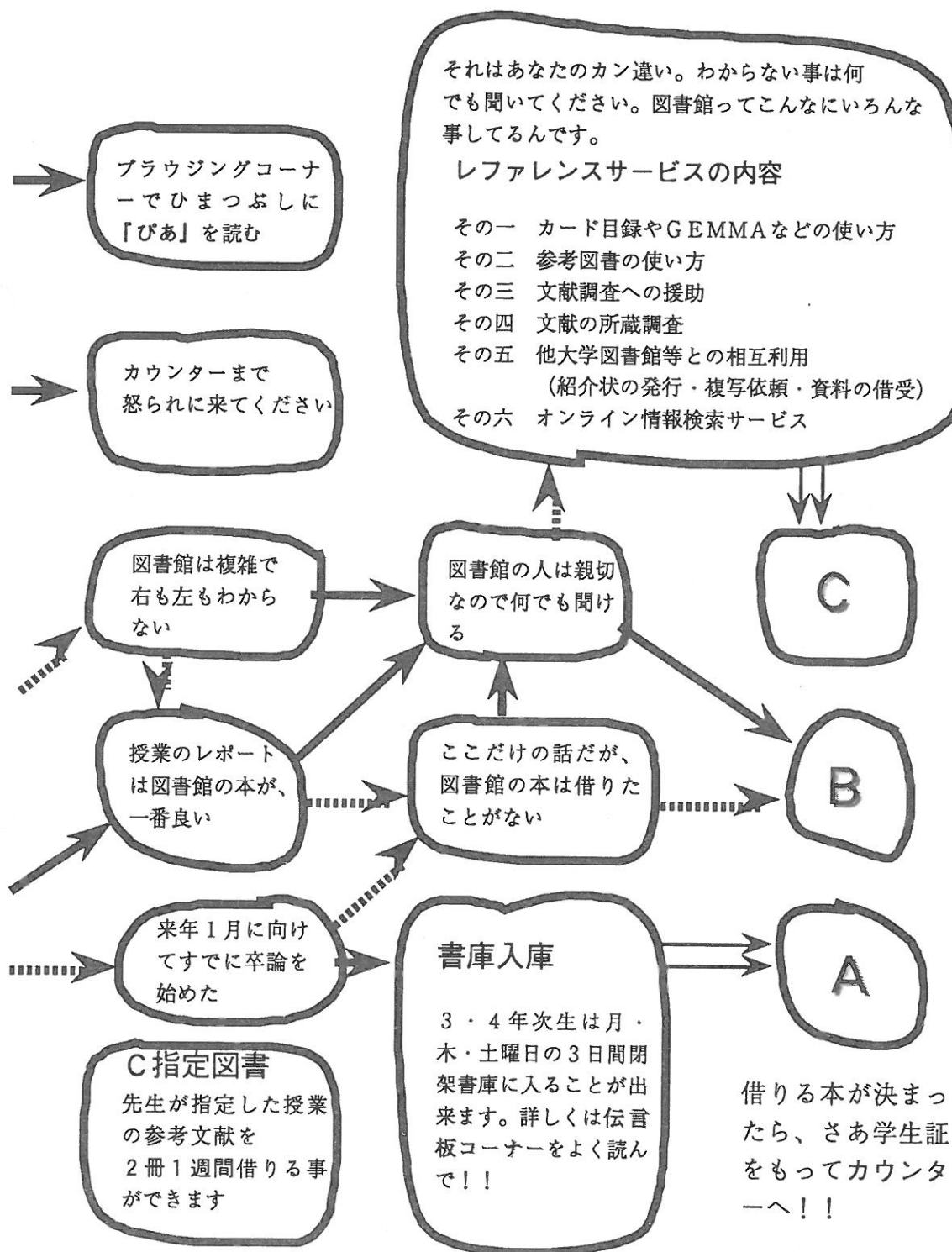
(システム係)

こ れ で あ な た も



図書館では
いったい何冊の本
が借りられるの
か？
質問に答え進ん
で、図書館に
ちょっと通！！
になろう

ちよつと通！！





大 学 生 に な っ た 君 へ

— 教員が贈るこの一冊 —

文学部

- 神学科 青山 玄 守護聖者：人になれなかった神々
植田 重雄 中央公論社 1991 081K/2358/v.1047
- 哲学科 小池 英光 バイドン
プラトン
[プラトン1(世界の名著6)所収] (池田 美恵訳) 中央公論社 1982 080K/299/v.6
- 教育学科 ミカエル カルマーノ
大学淘汰の時代：消費社会の高等教育
喜多村 和之 中央公論社 1990 081K/2358/v.965
- 三上 茂 権力のペンタゴン
L. マンフォード
(生田 勉[他]訳) 河出書房新社 1973 502K/101/A
- 英語学英文学科
山崎 勉 ヒロシマの「生命の木」
大江 健三郎 日本放送出版協会 1991 914K/645
- 仏語学仏文学科
栗村 道夫 フランスの知恵と発想
小林 善彦 白水社 1987 361.6K/1044
- 独語学独文学科
石井 賢治 合本 三太郎の日記
阿部 次郎 角川書店 1950 113/40
- 国語学国文学科
細谷 博 芸術とはなにか
L. N. トルストイ
(河野 与一訳) 岩波書店 1973 081K/246/v.11
- 山本 和義 江戸の無意識：都市空間の民俗学
櫻井 進 講談社 1991 081K/2432/v.1079
- 一般教育 横山 輝雄 エコエティカ：生態倫理学入門
今道友信 講談社 1990 081K/2418/v.0-80
- ウォルター ダンフィー
神なき時代
森 三樹三郎 講談社 1976
- 石脇 慶總 イエスという男：逆説的反抗者の生と死
田川 建三 三一書房 1980

経営学部

- 経営学科 大津 誠 経営学
河合 忠彦[他]編 有斐閣 1989 335.1K/772
- 情報管理学科
鈴木 敦夫 クォヴァアディス：ネロ時代の物語(上・中・下)
シェンキエヴィチ
(河野 与一訳) 岩波書店 1954 081K/246/v.143-1~3
- 村本 正生 コンピュータ概論
小迫 秀夫編 共立出版 1990

注：リストは、所属、教員名、著者(訳・編者)、出版社、出版年、請求番号の順です。
所蔵は1992年2月末日現在のものです。

経済学部

- 経済学科 松繁 寿和 ヒト不足社会：誰が日本を支えるのか
NHK取材班 日本放送出版協会 1991
- 水谷 重秋 [英語] イデオロギーを問う：西欧精神との格闘
大石 俊一 開文社出版 1990 830K/1446
- 森 茂也 人間の大地 (第1部・第2部) 犬養 道子 中央公論社 1989 369.3K/206
- 村松 久良光 大地の子(上・中・下) 山崎 豊子 文藝春秋 1991
- 中矢 俊博 ケインズ以前の100大経済学者
マーク・ブローク
(中矢 俊博訳) 同文館出版 1989 331.2K/551
- 須磨 千顔 日本論の視座：列島の社会と国家
網野 善彦 小学館 1990 指定図書
- 田原 昭四 なぜ日本は「成功」したか?：先進的技術と日本の心情
森嶋 通夫 ティビ・エス・リナ 1984 (810)/332.1D/Mo.64
- 渡邊 頼純 告白(上・下) 聖アウグスティヌス 岩波書店 1976 081K/242-1/v.0-65-1~2

法学部

- 法律学科 栗本 雅和 夜と霧：ドイツ強制収容所の体験記録
V. E. フランクル
(霜山 徳爾訳) みすず書房 1985 145K/127
- 丸山 雅夫 「キムの十字架」への旅 和田 登 信濃毎日新聞社 1991

外国語学部

- 英米科 明石 陽至 東南アジアの展望 松本 三郎
福永 安祥編 勁草書房 1986 302.2K/213
- 堀部 充 女たちのアジア 松井 やより 岩波書店 1987 081K/2356-2/v.369
- 岩野 一郎 福翁自伝 福沢 諭吉 岩波書店 1978 081K/242-1/v.0-22
- 佐々木 剛志 はじめて出会うコンピュータ科学(1~8)
徳田 雄洋文 岩波書店 1990 549K/2674/v.1~8
- イスパニヤ科 高橋 覚二 メキシコからの手紙：インディヘナのなかで考えたこと
黒沼 ユリ子 岩波書店 1980 081K/2356-2/v.116
- 日本語学科 加藤 俊一 世界の言語と日本語：言語類型論から見た日本語
角田 太作 くろしお出版 1991 810K/1087
- 駒井 明 ザ・ジャパニーズ：日本人E. O. ライシャワー
(国弘 正雄訳) 文藝春秋 1979 210/4151

《文庫訪問》

ロゴスセンター図書室

今回の〈文庫訪問〉では、学内メインストリートを北へ向かってK棟をすぎた辺りで右手に折れ、木々の生い茂る坂道を下りきった左手、東門の傍らにあるロゴスセンター(LOGOS CENTER)内の図書室を紹介したい。

ロゴスセンターは、南山学園の設立母体であるカトリック神言修道会の設置によるカトリック情報コミュニティーセンター的な性格を有する施設であり、その歴史は本学が五軒家町から現在地に移転して間もなくの頃現在のH14教室に開設された〈宗教情報センター〉がその前身であるが、1973年にロゴスセンターの名称で現在地に移った。図書室は当初からセンターの機能・活動のひとつとして開設されたものである。玄関を入って1階左手の窓辺に観葉植物の鉢植えが並べられ落ち着いた雰囲気を感じる50畳程の広さの部屋が図書室である。

図書室は中央にある大きな円卓が閲覧席になっており、壁面の書架にセンター所蔵の図書資料が配架され、これらは全て自由に手に取って閲覧することの出来る開架式となっている。所蔵資料は、図書約2,000冊(内、洋書100冊)、雑誌20タイトル程度(玄関ロビーに展示)及びビデオテープ・スライド・オーディオテープ等の非図書資料に大別されている。内容は、カトリック関係を中心とした宗教関係の辞典、事典、聖書、宗教文学、伝記、若干の児童書等と多岐に及んでいる。中には解放の神学、宗教と政治、仏教、儒教、ユダヤ教といったキリスト教の信者に限らず大いに利用したい資料が数多く揃っていることに注目したい。伝記の中には、聖ドミニコ、聖マキシミリアノ・コルベ神父、セント・修道士、ジュン・イワノ博士、マリア・テレーサ修道士女 etc...馴染み深い名前を見ることも出来る。さらに文学関係では、クロニソ、グレアム・グリーン、曾野綾子等々の著作集が、また、生と死を考えるコーナーでは我々現代人に今まさに問われている尊厳死、死生学、脳死問題をあつかった資料が集められているあたり、この図書室ならではのところであろうか。非図書資料の多くは、キリスト教関係ビデオ等が本学で教材に利用されているほか、センターの施設を利用して催される合宿、各種の研修会の資料として活用されているとのことである。

「ロゴスセンター図書室の"目玉コレクション"は？」とヨハネス・シュベール神父(カトリック神言会司祭(仏語学仏文学科教授)に尋ねたところ、Opuscula omnia... / S. Thomae Aquinatis, Paris, P. Lethielleux, 1927を紹介された。

これら資料の館外貸し出しは、ひとり2冊/2週間。本学学生はもちろん学外者にも貸し出すとの寛大さ

も利用者にとっては大いに魅力である。特に、学生諸君には「キリスト教概説」、「キリスト教思想」その他の授業で担当教員がロゴスセンター所蔵の図書を推薦されることも多々あるとのこと。一年次生の皆さんも、この先々きと利用する機会があると思う。本学図書館に所蔵されている関連図書と併せて大いに活用されるとよいと思う。

最後にロゴスセンターの主な活動・施設について館長に伺い館内の案内をしていただいたのでその概要を記すこととした。

ロゴス講座として、聖書研究(日・英・独・西の各国語)を中心にバプティスト講座、結婚講座等々いくつかの講座が一般公開されている。(これらの詳細は、センター発行の案内を参照されたい。)センター内の聖堂では英語、西語のミサも行なわれ(名古屋市内で毎日曜日に英語によるミサがおこなわれているのは当センターを含め2ヶ所だけ、西語はロゴスの第二日曜日のみである。)、これらのミサには最近の世相を反映してか東南アジアからの留学生や労働者の参加が増えているとのことであった。この辺りでもあなたも"国際交流"が出来るのではないのでしょうか? 日曜日にロゴスのチャペルをのぞいて見てはいかが。

その他、毎秋本学のキャンパスを舞台に開催される「受難劇」の公演の母体である野外宗教劇クラブをはじめとする2、3のクラブが部室としてセンター内にその居を構えている。また、ホール、ステージ、教室等はゼミ単位あるいはクラブ単位の研究会、ワークショップ、発表会などに、宿泊施設は、ゼミ合宿等にも利用されているとのことである。

今回ロゴスセンターを訪問し、諸々の話を伺ううちに特に感じたことは、館長を初めスタッフの方から「学生諸君はもとよりセンターを訪れる全ての人々との対話を大切にしたい」という心情を伺い、ここでも本学の建学の理念である「人間の尊厳のために」に通じるものを見たように感じたものです。

皆さんも勉学に、また心の安らぎを求めてロゴスセンターを利用されてはいかがでしょう。

(眞野和夫、喜多島晶子)

図書室利用時間
平日: 10:00~17:00
土曜日: 10:00~12:00
※宿泊者は、夜間の利用も可。日曜日・祝日は原則として休館。



《ライブラリアンズ・ハート》

図書館利用STEP

新入生みなさん、南山大学図書館へようこそ！！

みなさんは大学生になる前、図書館をよく利用しましたか？利用した人もしなかった人も、やっと味気ない受験勉強とおさらばしたのですから、これからは「がんばってがんばってあーそび、と自分の好きな勉強」のためにどんどん図書館を利用しましょう。何といっても早く使い方（本の探し方・事柄の調べ方）に慣れることです。

図書館利用STEP

その1：まず館内をやみくもに歩き回ってみる。「どこに何があるのかな〜。」

その2：図書館ツアーに参加する。「なるほど、こんな所にこんな本があったのか...」

その3：GEMMA(南山大学図書館の情報検索一本を探すシステム)をやってみる。むちゃくちゃになってもメゲないように... 何度もトライすればOK。

但し、機械を壊すと叱られるかもしれませんが、まだそういうケースには1件もお目にかかっていません。壊れるくらいがんばってください。

その4：一応カード目録もひいてみる。古い本はカードじゃないと調べられないんです。ゴメンナサイ。

その5：本を借りてみる。借りる手続を面倒臭がらないこと。すぐ済みます。

その6：ゼミの先生に頼んで普段は入れない書庫に入って欲しい本に直接触れてみる。

その7：欲しい本は希望して買ってもらおう。

その8：図書館の人にいろんな質問をする。何でも聞いてください。聞かれるとうれしくなって何でも教えてしまうのが図書館員の悪い癖です。利用しましょう。

というわけで、これを何度も繰り返していくうちにあなたは図書館のエキスパートになり、充実した学生生活を送ることができます。GOOD LUCK!!

(整理係：関谷 治代)



春はあけぼの...

春である。春になると楽しいことが多い。まずは「花見」日本人ならではの思い入れ。新しい人と知り合いになれる、これも楽しみの1つ。

反面辛いこともある。図書館ガイダンスで新入生を前にはずした時。気分はまさに冬に逆戻り。金さんの桜吹雪もびっくりのスピードで桜が散っていく。クラブの勧誘のちらしがもたらえずに、自分の年をはっきりと思い知らされた時。

図書館でも春は気分を一新して（人間と建物は確実に年を取るんだ、これが）皆さんのお越しをお待ちしています。図書館なんぞに用はないと冷たくあしらわず、ちょっとばかし寄ってくださいな。

書架の間をウロウロすると新しい発見や喜びがある（ちなみに私は桜守についてあちこち調べていたら、桜餅が突然食べたくなった。これを「棚からぼた餅効果」と呼ぼう）、疲れたら閲覧席でウトウトしたり（ただしビキは小さめに）、気が向いたら、ライブラリー・ツアーに参加するもよし（シンデレラ城ミステリーツアーよりも面白い、しかも並ばずに入れる、と言っておこう）、きっと何か楽しみ方が見つかるはずだ。こりあがだな...

(システム係：三谷 靖司)

《私の薦めるこの一冊》

『文明が衰亡するとき』 高坂正曉著 新潮社 1981年

〈209 K/1269〉

壮大な歴史的視野に立つ文明論で、ローマ、ベネチア、アメリカ合衆国について、その浮沈の複雑な過程を分析し、それぞれの文明の担い手たちが、次々と遭遇する困難を英知をもって克服し、繁栄をもたらすが、やがて繁栄そのものの中に衰退の要因を作り上げてしまう様子が活き活きと描き出されている。しかも文明の興亡は単に自然条件、政治、経済、技術等の要因によって宿命論的に説明し切れるものではなく、民族の道徳的な質の高揚、低下にかかっているとする考えが貫かれている。巨大な政治・軍事的覇者ローマ、通商立国のベネチア、近代工業と都市文明のチャンピオンアメリカの栄枯盛衰の過程には、現代日本の状況に驚くほど酷似している点が多く示されており、21世紀の日本を担う若者たちに「歴史は現代を照らす鏡である」ということの意味を強い説得力で訴える本である。

(外国語学部教授 西脇 博)

『福翁自伝』 福沢諭吉著 岩波書店 1978年

〈081K/242-1/v.0-22〉

福沢諭吉の自伝である。個人の生涯と日本の近代史とが見事に交差している。日本人離れのした希有な人格が、幕末・明治の激動の時代と切り結ぶ様子は、壮観である。が、それはさておき、ここで指摘したいのは若き日の福沢の凄まじい学問修行である。それも立身出世のためなどではない。ただひたすら「知」を焦がれ求めてのことだ。極貧の中での猛勉強だが、彼の心にあるのは苦しみではなく、「知」を究める至福と誇りである。欲求水準ばかり高く忍耐力や克己心などかけらも持たず、その癖に経済観念だけは発達している現代の学生諸君にこそ、一読をお勧めする。どこから読んでも構わない。どんな読み方をするのも勝手次第。文学的情緒とはおよそ縁遠い文章だが、実に簡潔明瞭で読み易く、おまけにどこかとはけたユーモアがあって可笑しい。質の高い散文と言うべきで、読後は爽快である。

(文学部教授 倉田 信子)

『地球／母なる星』 ケヴィン・W・ケリー編 小学館 1988年

〈450 K/212〉

この本には地球の壮麗さと宇宙の神秘を伝える150枚の写真が掲載されている。写真は宇宙船が打ち上げられてから、帰還するまでという順に並べられており、実に様々な角度から地球をとらえている。宇宙から見た海流の動きや雲の流れなど、どれもすばらしい写真ばかりだが、その中で特にお勧めなのが宇宙の暗闇に浮かぶ青い地球の写真だ。地球は本当にきれいな星なんだと実感できる。

また、この本のもう一つの特色は世界各国の宇宙飛行士のことばが日本語と母国語で添えられていることである。彼らのことばからは、地球を遠く離れて見た者ならではの感情が十分に伝わってきて、本を読み終えた時に自分も同じように宇宙から地球を見たかのように感じてしまうほどだ。地球上には色々な民族があり、ことばも違うけれど、結局は同じ星に暮らしているんだと大きな気持ちにさせてくれる。のんびりとページをめくりながら見てほしい一冊だ。

(整理係 加藤 あずさ)

私の好きな本

大学生が読むべき本と言われても、数ある本の中から、一冊を選ぶなどと言うことは私には難しすぎます。本が役に立つか立たないかと言うのは結果的には読む人の気持ちの問題であり、「少年ジャンプ」を読んで何かを得る人もいれば、何だか難しい本を読んでも、勝手な理屈を言うだけの人もいます。その意味では、自分が読みたいと思ったのであれば、小説でも随筆でも、活字が多くても少なくとも、読んでみるべきだと思います。とは言っても何の本の名前も出さないのもさびしいので、北杜夫著「どくとるマンボウ航海記」、遠藤周作著「狐狸庵うちあけばなし」、小林秀雄著「考えるヒント」の三冊を挙げておきます。別に深い理由とかはないのですが、読むとなかなかおもしろいです。他に失恋した男の子は遠藤周作著「愛情セミナー」などいかがでしょうか。

たいして役に立たないような文ですが、とりあえず読む本のない人は読んで下さい。

(経済学部経済学科平成4年3月卒業 野田 義隆)

《伝言板》

書庫利用の案内

図書館の地下に広がるあなたの知らない世界、といえば書庫。
何十万冊という本が地下であなたの利用をお待ちしています。

書庫を利用できる日時

月曜日・木曜日 13:00～16:30

土曜日 9:00～11:30

対象：3年次生・4年次生

学生証持参の上、閲覧カウンターまで来て下さい。

レファレンス・カウンターからのお知らせ 3つ

GEMMA講習会にご参加下さい

図書館を使いこなすには、まず「GEMMA」から、という訳で、今年も恒例の検索システム「GEMMA」の講習会を開催します。今年は、個人単位で受付ける定例講習会の回数を増やし、水曜日だけでなく、月、火、木曜日にも開くことになりました。
詳しい日程等は、裏面のライブラリーカレンダー、掲示をご覧ください。

ちょっとショックなお話

皆さんに愛用されている、日経テレコンの接続料が1分30円から40円に値上がりしてしまいました。でも、新聞記事を検索するのにこれほど便利なものはありません。40円だって、まだまだ安いものですよ。どんどん使ってください。

国文の人に耳よりなお話

4月1日より、国文学研究資料館が論文目録データベースのオンラインサービスを始めました。昭和58年からの『国文学年鑑』の「雑誌紀要単行本(論文集)論文目録」をデータベース化したもので、執筆者名やキーワードなどで検索することができて便利です。有料ですが、手軽に文献のリストを作りたい方、ご利用下さい。

ライブラリーカレンダー

1992.4～1992.6

4 月					5 月					6 月				
9:00	3:30	6:30			9:00	3:30	6:30			9:00	3:30	6:30		
	0:00	4:30		G 文 書		0:00	4:30		G 文 書		0:00	4:30		G 文 書
1(水)					1(金)					1(月)				★
2(木)				★	2(土)				★	2(火)				
3(金)					3(日)					3(水)				
4(土)				★	4(月)					4(木)				★
5(日)					5(火)					5(金)				
6(月)				★	6(水)				★	6(土)				★
7(火)					7(木)				★	7(日)				
8(水)				★	8(金)					8(月)				★
9(木)				★	9(土)				★	9(火)				★
10(金)					10(日)					10(水)				★
11(土)				★	11(月)				★	11(木)				★
12(日)					12(火)					12(金)				
13(月)				★	13(水)				★	13(土)				★
14(火)				★	14(木)				★	14(日)				
15(水)				★	15(金)					15(月)				★
16(木)				★	16(土)				★	16(火)				
17(金)					17(日)					17(水)				★
18(土)				★	18(月)				★	18(木)				★
19(日)					19(火)				★	19(金)				
20(月)				★	20(水)				★	20(土)				★
21(火)					21(木)				★	21(日)				
22(水)				★	22(金)					22(月)				★
23(木)				★	23(土)				★	23(火)				★
24(金)					24(日)					24(水)				★
25(土)				★	25(月)				★	25(木)				★
26(日)					26(火)				★	26(金)				
27(月)				★	27(水)				★	27(土)				★
28(火)					28(木)				★	28(日)				
29(水)					29(金)					29(月)				★
30(木)				★	30(土)				★	30(火)				★
					31(日)									

★：開館時間

G：GEMMA講習会

文：文献探索講習会

書：3・4年次生書庫在庫日（月・木曜pm 1:00～4:30, 土曜am 9:00～11:30）

《編集後記》

新入生諸君、図書館の輝く星となれ！[T.S.]

入学おめでとう！

図書館を大学生活のパートナーとして

活用してください。

[K.M.]

明日ありと思う心の仇桜。

（明日は明日の風が吹く...）[A.K.]

（タイピング：平松富美）

南山大学図書館報 デュナミス No.13

1992.4.1.発行

南山大学図書館 広報委員会

編集委員：眞野、鈴木、喜多島

〒466 名古屋市昭和区山里町18

Tel. 052(832)3707

Fax(G3) 052(833)6986